

Injury Alert (傷害速報)類似事例

電気ケトルによる右前腕熱傷(No.28 電気ケトルによる顔面・胸部・上肢熱傷の類似事例 6)

事例	基本情報	年齢：0歳8か月 性別：女児 体重：7kg 身長：70cm
	家族構成	父、母
	発達・既往歴	なし つかまり立ちができるようになったばかり
臨床診断名		右上腕 浅達性2度熱傷（範囲：体表の約5%）
医療費		入院：554,000円 外来：不明
原因 対象	対象名称	電気ケトル
	入手経路 使用状況	新品で購入、ほぼ毎日使用していた。
発生 状況	発生場所	自宅の台所。食器棚の2段目（高さ約80cm）、底面が引き出せる扉のない棚に電気ケトルと炊飯器が置いてあった。（図1）
	周囲の人 周囲の環境	自宅には母と本児の二人のみで、児が台所にいた。母は洗面所にいたが、台所の様子を確認できない状況だった。
	発生日月日	2021年1月X日（月）午後3時1分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	上記時刻に、台所から本児の泣き声がしたため、母が台所に向かうと、本児が床で座って啼泣し、電気ケトルが倒れ、床に湯が溢れていた。本児の右前腕にお湯がかかったと思われ、同熱傷部位を冷水で数分冷却したのち、濡れタオルで包み、救急車要請し医療機関Aに搬送された。
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰		医療機関A受診時、右手関節から前腕にかけて破綻した水疱・びらんを認めており、浅達性2度熱傷約5%相当と判断された（図2）。生理食塩水で洗浄し、フィブラスト、ワセリンを塗布し、創傷用シリコーンゲルドレッシング、ガーゼ、包帯で保護した。入院とし、連日熱傷処置・アセトアミノフェンによる鎮痛管理を行った。入院翌日に全身の膨疹が出現したため、薬剤アレルギーを疑い、アセトアミノフェンを中止し、抗ヒスタミン薬を使用した。後日アセトアミノフェン負荷試験を行ったが症状陰性であり、熱傷ストレスに伴う皮膚反応と判断した。X+5日目に発熱があり、提出した創部培養よりMRSAが検出されたが、発熱は1日のみであり、抗菌薬治療は行わなかった。X+10日目に上皮化傾向を認めたため、退院とした。退院後は、自宅付近の医療機関B形成外科で通院治療継続の方針とした。



図 1 自宅の台所



図 2 初診時の本児の右前腕熱傷部位